

2019. 7. 31

畑 啓之

「亀堰之卑」碑文を読まんとし、確定できない漢字は2字にまで迫る

7月29日のブログの題名は「加古川市国包の『亀堰之碑』碑文を活字に起こした これから読み下し文に」であるが、完全主義がたたり、やはり漢字確定の努力をしている。

使われている漢字の数は787個、このうち785個の漢字を確定した。残るは2個であるが、左側に示す文字は不鮮明で、石碑そのものに当たるもまだよくはわからない。意味を追いかけていくと自然と答えが出てくるかもしれない。

一方、右に示す漢字は石碑上でもくっきりとしているが、この文字を辞書で見出すことはできていない。図書館に通って、さらに詳細な漢和辞典に当たるより仕方なさそうだ。

漢字の並びがほぼ確定したので、いよいよ、というか、遅まきながら「漢文」を読むためのルールの勉強を始めた。この碑文1面が読みこなせれば、漢文にもかなり習熟できるものと、心の中では願っている。

この碑文の最後の5行は実に文学的で、これをうまく読み下すにはある種の才能が必要となりそうである。



知謀立碑屬銘于余銘曰

浩浩洪流没我良田不稼不穡六百卅年懿矣畑子遼究地理三歲困劬一朝行水傑然蔓草朝除夕掃蔚乎長
林年誅月討嘉種好苗秋豐春饒氓舞于野 君賀于朝凡物之利易一難二貴之欣笑為賤之懟若不良圖僅
見一隅兩損或有兩益絕無彼哉李悝固哉白圭所以孟軻罪闢草萊斯舉異茲上下雙宜？君既厚褒氓亦立
碑渠水悠悠遺芳共流無涸無竭千秋萬秋 嘉永七年甲寅秋八月